

子どもの主体性と教師のかかわり(4) —園と家庭との個人的なかかわりを中心に—

高月 教恵

幼児教育学

Individuality of Children and Teachers' Relation to Children (4)
—Chifly on Personal Relations between Their Kindergartens and Their Homes—

Norie TAKATSUKI
(2001年11月1日受理)

4歳児E男の一年間の行動観察記録と、園と家庭との個人的な記録を中心にE男の主体性の育ちと、教師と母親の個人的なかかわりについて考察した。その結果、E男の主体性の育ちと教師のかかわりについては、先の研究²⁾と同様に、E男の主体性の育ちは、“自己充実”と“教師や友達に自分自身が認められたこと”が大きなきっかけになり、教師のかかわりとしては、“環境構成”と“いっしょに遊ぶ”ことが大きなポイントになったと考えられる。さらに、母親と教師の個人的なかかわり（話し合い・連絡帳・電話）については、母親と教師が個人的なかかわることによって、教師は母親を理解し、母親にE男の様子を伝え、そのことによって教師と母親の信頼関係は深まり、母親の子どもを見直す態度が育っていったと言えよう。そしてそのことは、E男の主体性の育ちに大きな影響を与えたと考えられる。

はじめに

筆者は先の研究²⁾で、主体性とは、「自分からしようとする」、「人に頼らず自分で行動する（自分で選んで、決めて、実行する）」、「自分の思いを言葉で表現できる（自己表現、伝達）」、「友達とかかわって行動する」と定義した。しかも、主体性については、「発達の視点をふまえて対処しなければならない」ということである。さらに、「自分からしようとする」自発的意欲が湧き起る時点は、“好きな遊びをしている”場面での子ども達の観察記録より、“教師のかかわり”という視点からとらえると、心の内面の動きが外に表れた時点、つまり「自分からしようとする」態度が

見えた時からということになった。

以上の研究をふまえて、“好きな遊びをしている”3歳児と5歳児の行動観察記録を中心に、子どもの主体性の育ちと教師のかかわりについて考察した結果³⁾、子どもの主体性の育ちは“自己充実”と“友達に自分自身が認められたこと”が大きなきっかけになっていることが明らかになった。そして子どもの主体性への教師のかかわりとしては、“環境構成”と“子どもといっしょに遊ぶ”ということを通して教師自身が幼児の生活を誘導することが大きなポイントになると考えられる。また、子どもの主体性の育ちは、“好きな遊びをしている”中でも、“テーマを共有した遊び”に多く見られた。

さらに、“テーマを共有した遊び”の環境構成について年齢差に焦点をあてて考察した結果⁴⁾、教師の環境構成としては、話し合いの場と時間の確保、物的環境の構成、環境構成の前段階としての子どもの体験・観察の機会の設定が重要なポイントになることが指摘できるのではないかと思われる。そして、遊びの最初の段階では、話し合いの場と時間を確保し物的環境を構成して教師が枠組みを明確にするという主導的な役割をすることが、“テーマを共有した遊び”を促進していったと言えよう。その中でも、3歳児の場合は物的環境構成が大きな役割を果たしており、5歳児の場合は話し合いの場と時間の確保が大きな役割を果たしていると考えられる。そして、教師だけではなく子ども達もまた環境構成にかかわっていることがしばしば見られる。子ども達は、主に物的環境構成にかかわっており、3歳児よりも5歳児のほうが積極的であり、5歳児の場合は活動の途中からは教師よりも主導的に環境を構成し遊びを進めようとしていることがうかがえる。しかし、教師は全面的に子ども達に物的環境構成を任せてしまうのではなく、見守ったり、手伝ったり、手助けをしながら、必要な場面では積極的に環境を構成していると考えられる。

本稿では、4歳児E男の行動観察記録と園と家庭との個人的なかかわりの記録を中心に、子どもの主体性の育ちと園と家庭との個人的なかかわりについて考察を深める。

1. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

子どもの様子を教師が実践指導する中で、観察した記録と園と家庭との個人的なかかわりの記録を中心に、子どもの主体性を育てるには教師はどのように家庭と連携をとればよいか考察する。

(2) 研究の方法

子どもの行動観察は教師（担任）が子どもと生活する中で観察する自然観察法である。園と家庭との個人的なかかわりは、教師と保護者の話し合い・電話・連絡帳を記録する。

①場所 倉敷市M幼稚園（3歳児3クラス51名、

4歳児2クラス57名、5歳児2クラス58名、教職員数10名）

②対象 4歳児クラスE男（平成7年4月23日生）とE男の保護者

③観察者 担任

④観察期間 2000年4月～2001年3月

⑤観察場面 園での子どもの様子、教師と保護者の個人的なかかわり

⑥記録整理の方法 2週間ごとに筆者を含むM園の全教師で研究会をもち、担任教師から出された観察記録について話し合いをし、子どもの姿と教師のかかわり（環境構成・態度）について整理する。さらに、担任教師から出された保護者との個人的なかかわりの記録について話し合いをし、教師と保護者とのかかわり（話し合い・電話・連絡帳）について整理する。

2. 研究の結果

(1) 進級当初のE男

E男は、父・母・妹（3歳児・年少組）・本人の4人家族であり、幼稚園に隣接している団地に住んでいる。母親が仕事をしているため、預かり保育はほぼ毎日であり、降園後はほとんど妹と家の中で過ごしている。E男は3年保育の年中児である。

進級当初のE男は、泣きながら登園し、母親となかなか離れられない。そして、一人でふらふらと園内を歩いたり、一人で大型三輪車に乗って遊んだり、一人で空箱にセロテープをつけて遊ぶことが多く、友達とかかわって遊ぶことはない。教師がかかわろうと話しかけても返事をしなかったり、つなごうとする手を振りほどいたりする。このようなことから、母親から離れることに抵抗があり、新しい環境になかなか馴染むことができず、大型三輪車と製作遊びが好きなようであるが、一人で遊ぶことが多く、素直に自分の気持ちを表すことができないE男の様子がうかがえる。

以上のことから、E男の主体性の課題は、母親から離れて自分から行動し、自分の思いを素直に

表現することができ、友達とかかわって遊ぶようになることではないか、と考えられる。

そこで、教師はE男に寄り添い、いっしょに遊びながら、新しい担任に安心感を育むように心がけている。

(2) E男の一年間の育ちと教師のかかわり

E男の一年間の主体性の育ち⁵⁾をみると、4月中旬の雨の日、3歳児の時同じクラスであったN男とペットボトルでボーリングをする。N男がE男に調子を合わせてくれたことで遊びが続き、「もっとペットボトルをちょうだい」と教師に要求している。しかし、その後は一人で遊ぶことが多い。5月中旬、教師に誘われてザリガニの水替えに参加して、Y男がザリガニを持っているのを見て「Yくんすごい」と感激し、自分も持とうとする。5月下旬、幼稚園で電車ごっこをしようと縄跳びを持って登園するが、誰も乗ってくないと、そのことを教師に言うことができるようになる。そして、教師に自分から挨拶をしたり、「先生、砂場でいっしょに遊ぼう」と誘うようになり、教師とT男とY子と砂場で遊んでいる様子から、E男の教師を信頼してきている様子が見られる。6月下旬、3歳児の時同じクラスの友達とヒーローごっこ(タイムレンジャーごっこ)をしたり、牛乳ビンの蓋でお金を作り、教師にそれを使ってもらうために家で飴を作って、園に持参し教師に買ってもらっている。7月、E男は教師と一緒に、ジャングルグローブで遊ぶ約束をして遊び、T男を誘って一緒に遊ぶ。9月、夏休み明けは進級当初にもどったように集団から外れて遊ぶことが多く、妹や途中入園した従姉(5歳児)と遊ぶことも多い。T男とも遊ぶが遠慮がちである。しかし、教師に誘われると砂場で一緒に遊ぶ。そこにT男も加わり、E男がバケツで水を汲んでT男の穴に水を入れ、T男が「どうして入れるんで」と怒ると、E男は「水入れた方が、入ったら面白いが」と応え、仲良く遊ぶ。9月中旬、製作コーナーで牛乳パックを繋いで虫かごを作り、「先生、紐つけて」と要求し、つけてもらうと「ありがとう」と言う。作った虫かごを肩にかけ一人で園庭に出かけるが、しばらくして部屋にもどり、虫を逃がした様子を教師に話し、虫かご

にエサの草を入れ再度出かける。10月、クラスの友達と大型三輪車に乗って遊んだり、運動会の練習も皆と一緒にして、運動会には一生懸命参加している。製作コーナーで、友達がトイレトペーパーの芯に折り紙を貼って動物を作っているのを見て、ウサギを作り始め、「どうやって作るん」と尋ねてくるS子に「これあげる」と折り紙を一枚あげて一緒に作る。飼育当番の時、自分から掃除に来て、デッキブラシとホースを友達と交代しながら掃除をしている。運動会で友達と一緒にすることの楽しさを味わったことや、S子が自分を認めてくれたことがE男の自信となり、積極的に活動に参加し、友達を受け入れることができるようになってきている様子が見えてくる。11月、ダンボールと割り箸とクレパスで、ペロペロキャンディを何個も作り、なかなか割り箸が刺せないY子が頼みに来ると刺してあげ、C子が牛乳ビンの蓋のお金を持って買いに来ると売る。ペロペロキャンディを食べる先生が、虫菌にならないようにと折り紙で、4本歯ブラシを作っていることから、E男の教師へのやさしさが伝わってくる。そして、E男と一緒に買物をしようと部屋へ自分のバックを取りに行くT男について部屋に行き、待ってあげて一緒に買物をする。12月、押し車に落ち葉を乗せ、トイレトペーパーを石焼芋に見立てて、「いしやきいも」と言いながら園庭を歩き、「よして」と言って来たK男やY男と交代で押し車を引きながら「いしやきいも」と呼びかけて廻り、買いに来た教師や女児に売る。2日後、製作コーナーの箱の隅に穴を開け、紐をくくり、駅弁売りの台のようなものを作り石焼芋屋を始める。T男が「それさせて」と言うと断るが、「一緒にしよう」と言われて、E男は「こっちかけて。一緒にしよう」と一本ずつ紐を首にかけて、石焼芋屋をしている様子から、自分の思いを言葉で表現することができ、友達の思いも受け入れることができるようになってきているE男の育ちが見えてくる。1月、休み明けは家族旅行のため始業式より3日遅れて登園するが、抵抗なく園生活に戻れる。製作コーナーでレトルトカレーの空箱を横に並べてメニューを作り、教師に選んでもらって紙を切り、サインペンで色を塗ってカレー

を作り、教師が食べるのをうれしそうに見る。3日後、教師に店を作るために机を運んでもらい、牛乳ビンの蓋を要求し、牛乳パックで看板作りをしながら、買いに来たT男や女児に売る。2月、縄跳びの練習には「Eちゃんできんもん」と言って参加しようとしませんが、製作コーナーでヨーグルトの容器を見つけてヨーグルト屋さんを始め、Mちゃんに「Eちゃんなんでも作るの上手だね」とほめられ、「作るの好きじゃけん」と応える。3月、製作コーナーのナイロンの紐を約2m切り、トイレの手洗い場を測り始め、K男が加わり、教師に目盛を入れてもらって、E男と教師とK男で園庭に出て測り出すと、T男・S男・Y男が加わり、他の組のH男・U男・I男も加わって、皆で紐を持ったり、交代で測ったり、測ったことを紙に書いたりして遊びが展開する。この様子から、素直に自分の気持ちを表現することができ、いろいろな友達と協力しながら遊ぶことができるようになってきているE男の主体性の育ちがうかがわれる。

E男の一年間の育ちに教師がどのようにかかわったかを見ると、教師はE男に寄り添い、遊びに誘ったり誘われたりしながら、一緒に遊んでいる。一緒に遊びながら、見守ったり、ことばがけをしたり、認めたり、共感したり、手助けをしている。そして、子どもの興味関心を見取りながら環境を整えていっている。

(3) 一年間の園と家庭との個人的なかかわり

園と家庭との個人的なかかわり⁶⁾(表1参照)をみると、進級当初、母親は泣きながら登園するE男を送って来て、E男の前で「この子、幼稚園嫌いなんです」と担任教師に話す。園長が「E男ちゃんの気持ちを受け止めてあげて下さいね」と話す(4/18)と、素直に受け入れ、E男の視線に立ってかかわろうとする様子が見られる。家庭訪問(4/21)の時、「幼稚園に行ったら友達をたくさん作ってもらいたかったんですが、E男はふらふらして」とか、「妹は全然心配してないんですが、E男は心配で心配で」と話し、教師は「大丈夫です。まだまだ一人遊びの子はいますよ」とか、「Eくんはいっぱいいっぱいいいところがあります。大好きなお母さんから褒められる

と自信になって、やる気になります」と言っている。このことから、教師は母親がE男の子育てに不安をもっていることを理解し、母親を受け入れ励ましている様子がうかがえる。5月から7月は、教師は月一回、連絡帳でE男の園での様子やE男が出来るようになったことなどを伝え、E男の成長が母親に伝わるように心がけている。それに対し、6/3の母親からの連絡帳では、「友達と遊べるか不安です」と記していることから、友達と遊べないE男をまだ心配している様子がうかがわれる。しかし、6/20の教師からの連絡帳で、E男がカメラやザリガニに興味を持ち、「子ウサギにも触りたい」と言っている様子を知ると、「今まで動物が苦手だったのでびっくりです」(6/26の母親からの連絡帳)と言い、6/28の降園時、教師が「Eくんは素敵な銀行作っていますね。いつも感心するんです」と話しかけると、母親は「年中になってすごい成長です」と応えて、E男の成長を喜んでいる様子がうかがわれる。7月には、母親はE男のためにセロテープを買ってやり、そのことについての降園時の教師からの話しかけに、「E男は作るの好きなんです」と応えている。6/3の母親からの連絡帳に、「長い間、工作にはまったE男がやっと外遊びにも目を向けてくれて…」と表現していたことから考えると、工作しかできないE男から工作ができるE男へと、母親はE男のよさを認める余裕ができてきていると考えられる。夏休み明けの9月中旬、教師から母親への話しかけで、妹や従姉と遊ぶことが多く、友達と遊ぼうとしないE男を心配している様子がうかがわれたので、教師はバツを持つことに挑戦してがんばっているE男の様子を伝えると、「大きくなっているんですね」と言って安心した様子である。10/24の預かり保育の帰り、母親や教師にコオロギを持つことができ、それをみせるE男を教師と母親と一緒に喜ぶ。10/17・11/14・11/30に教師は連絡帳で、E男がY男と飼育当番をしてがんばったことや、上手にべろべろキャンディを作り友達に頼まれて作ってやりお菓子屋さんごっこをしている様子や、お店屋さんごっこで買物をしたり店員になって遊んでいる様子を伝えているが、母親からの返

表1 家庭との連携一個人的なかかわりを中心に一

月	家庭との連携	行事
4/7	『登園時、泣くE男を連れて来て、「この子幼稚園嫌いなんです」と言う』⇒『降園時、「Eくん、よくがんばったね」と母親の前でほめる』	始業式 保護者会
4/18	『園長先生が「E君の気持ちを受け止めてくださいね」と話す』⇒『園長先生の話を楽しみに聞き、努力しようとする。』	家庭訪問 誕生会
4/21	『家庭訪問の時、「幼稚園に行ったら友達をたくさん作ってもらいたかったんですが、E男はふらふらして」と困った様子で話す』⇒『「大丈夫ですよ。まだまだ一人遊びの子はいますよ」と応える。』『「妹は全然心配していないが、E男は心配で心配で」と話す』⇒『「E君はいっぱいいっぱいいいところがあります。大好きなお母さんから褒められると自身になって、やる気になりますよ」と言う』	第二まこと会 総会 親子交通教室
5/31	【E男さんはとてもよくお話をしてくれるようになりました。「一緒に砂場で遊ぼう」と誘ってくれるようにもなりました。かくれんぼや砂場でも、友達がいると楽しそうです】 ⇒	花まつり 自由参観日 草取り奉仕 小運動会
6/3	⇒【長い間、工作にはまったE男がやっと外遊びにも目を向けてくれてちょっと一安心です。熱中すると周りが見えなくなってしまうので、友達と遊んでいるのかと思うことがあります。自分という個性を持っていることはいいことだと思いますが、友達と遊べるか不安です】	誕生会
6/20	【今日は、カメラやザリガニの水替えを手伝ってくれました。「子ウサギにも触りたい」と言っています】⇒	土曜参観日 (ウォークラリー) 誕生会 盆踊り 親子練習
6/26	⇒【今まで動物が苦手だったのでびっくりです。もっといろんな生き物が触れるようになるといいな】	
6/28	『降園時、「E君、素敵な銀行作っていますね。いつも感心するんですよ』⇒『年中になって、すごい成長です』	
7/12	【朝や帰りの挨拶もE男さんからしてくれるようになり、とてもうれしいです。朝の支度も自分で頑張っています。出席ノートにシールを貼るところを「今日はここかな?」と聞いて、「Eちゃんは桃太郎のシールはるんじや」と桃太郎のシールが続いています】⇒返事なし	夏まつり プール 誕生会 学級懇談 終業式 夏季保育
7/13	【「かあかが、Eちゃんにセロテープを買ってきてくれた」とうれしそうに話してくれました】しかし、『降園時、会ったので直接話す』⇒『「そうなんです。10個くらいバックになったのを買ったんです。安かったし、E男は作るのが好きなんです』	
9/14	『Eちゃん従姉さんが入園されたのがうれしいようで、妹さん達と一緒によく遊んでいますよ』⇒『「そうでしょう。家に帰ってもなんでも公園に行っても近所の友達がいても妹とばかり遊んでるんです。私としては、友達と遊んでほしいのですが』⇒『先日、バックを捕まえに行き、自分で持とうと頑張っていたようです。持つのが、あまり得意なほうではないのに凄いですよね』⇒『「そうですか。大きくなっているんですね』	始業式 お月見 誕生会 実習生お別れ会 予行演習
9/25	【最近クラスの友達と製作をすることも多くなり、M子さん(妹)達とは時々遊んでいます。返事がとてもよくて「Eさん、朝拝の時間には(針が11になったら)帰ってきてね」と言う。「はい」と言って出かけ、虫取りに行ったら「コオロギを見つけた」とうれしそうに話してくれます。】⇒返事なし	
10/17	【今週はもみじ組が飼育当番です。E男さんが「Eちゃんも、掃除する」と言って来てくれました。Y君と一緒にホースやぼうずりを持って隅まできれいにしてくれました。うさぎや鴨も先生も喜んでます。】⇒返事なし	なかよし運動会 映画会
10/24	『預かり保育で迎えに来た母親と帰ろうとして一緒に歩いているE男に出会う。E男が「コオロギ持てた」と見せてくれたので、「すごいねEちゃん、ねえ、おかあさん』⇒『「ほんと、すごいね」と言って、「かわいそうだからにがしてあげる」と言うE男といっしょにコオロギを草むらに返し、「Eちゃん、ほんとにやさしいね」とE男をほめる』	園外保育 バザー 誕生会
11/14	【クラスでは今、レストランごっことお菓子屋さんごっこをしています。E男さんはペロペロキャンディを作りました。キャンディの部分はダンボールを丸く切ったもので、それに棒(割り箸)を刺します。E男さんは、とても上手なので一緒に作っていた友達も「E男ちゃんして」と言ってしてもらったりしていました。作った後は、お菓子屋さんになって「何色ですか」とか「これはチョコレートとイチゴ味です」と言ってすっかり店員になりきっていました。】⇒返事なし	オープンスクール みかん狩 誕生会 自由参観日
11/30	【E男さんはお店屋さんごっこでバックを持って買物に行ったり、お菓子屋さんの店員になったりして遊んでいます。】⇒返事なし	

12/6	なったりして遊んでいます。】 ⇒ <u>返事なし</u> 『 <u>個人懇談の時、「年少組の時はEちゃん友達がいなかったけれど、もみじ組になって友達と一緒に遊べて楽しい」とお風呂の中で言うようになりました。年少の時は聞いても何も言わなかったんですが、やっぱり本当みたいです</u> 』 ⇒ 『「E男さんは、いいところがいっぱいあります。いいところをしっかり言葉に出して言ってあげてください。」』 ⇒ 『「いつも書いて下さるばかりで、お返事が書けなくてすみません」』 ⇒ 『「楽しみにしています。何でもいいですから書いてください。楽しみにしていますね」』	自由参観日 個人懇談 誕生会 お味噌汁給食 大掃除 お楽しみ会 お餅つき 終業式
1/9	Tel <u>城崎温泉へ行っています。11日まで休ませて下さい。</u>	
1/12	『 <u>登園時、「おはようございます」</u> 』 ⇒ 『「旅行に行かれたようで、良かったね。今年もよろしく願っています」』 ⇒ 『「こちらこそ、よろしく願います」』	始業式
1/17	『 <u>登園時、「昨日の学級懇談の日、降園の時になって、E男さんが「なんだか涙が出そう」と言って涙ぐんだんです。それまでは年長組でビデオを観ていたんですが、友達が家の方と帰るのを見た寂しくなったんだと思います」と話す</u> 』 ⇒ 『「昨日、「行かれない」って言っておいたんですがと笑いながら言う」』 ⇒ 『「よくがんばってましたよ。「お婆あちゃんど帰るんだよ」と言うのと納得してくれましたよ」』 ⇒ 『「最近、「昔はひとりと言っとたけど、今は友達が聞いてくれる」と言っています」』 ⇒ 『「Eちゃん、友達が大好きですよね。段々大きくなってらるんですね。楽しみです。」』 ⇒ 『 <u>遅い成長です</u> 』	学級懇談 誕生会 参観日 豚汁給食
1/31	『 <u>発表会の練習をしています。しらゆき姫の劇をします。E男さんは「森の小鳥になりたい」と小鳥になって頑張っています。楽しみです。とても大きな声で台詞もいえますよ</u> 』 ⇒ <u>返事なし</u>	
2/6	『 <u>今日は発表会の予行演習でした。E男さんはとても張り切って、踊ったり歌ったり大きな声で台詞も言えました。お母さんが見に来て下さるのを楽しみにしています</u> 』 ⇒ <u>返事なし</u>	新入園児 インクルテスト 節分 予行演習 映画会
2/28	『 <u>先日メリーさんが亡くなって「メリーさんに手紙を書く」と言って書いてくれました。心のこもったお手紙、メリーさんも喜んでいよ。E男さん、以前は「(大きくなったら)銀行屋さんの近くのパン屋さんになりたいと言っていました、最近「銀行屋になりたい」になりました。お部屋でも銀行の看板を作って、牛乳瓶の蓋のお金で銀行屋さんをして遊んでいます</u> 』 ⇒ <u>返事なし</u>	ごはん給食 生活発表会 祖父母歓迎会 誕生会
3/2	『 <u>掃除の時間に園庭の隅で大きな卵型の石を発見した E男さん、「化石じゃ。恐竜の卵じゃ」と部屋まで持ち帰っていました</u> 』 ⇒ <u>返事なし</u>	縄跳び大会 ひなまつり クッキークッキング
3/19	『 <u>E男さんはもう少しで年長組ですね。E男さんは作るの大好き、名人でした。賢くて何でもできる男の子です。これからも持っている力をどんどん発揮して下さい。一年間ありがとうございました</u> 』	お別れ運動会
3/22	⇒ 『 <u>一年あつというまででした。E男と私にとって、この一年は楽しい一時でした。年少の時は幼稚園での話など全きくことができなくてちょっと心配しましたが、年中さんになってからは少しずつですが聞くことができるようになり、嬉しく思っています。これもT先生がたくさん愛情で接してくれたおかげだと感謝感謝の気持ちでいっぱい。まだまだ心配な事はたくさんあります。E男が自分の力でどんなことにも向かっていけるようになればいいのですけど、親から見ていて E男は叩かれたり突き飛ばされたりすると、相手に向かっていこうとせず、その場からすぐ逃げてしまっていることが多いような気がします。今まで(幼稚園に入る前)にいろいろ友達と遊ばせていなかったことに原因があるのかなど考えている今日この頃です。私が E男に望んでいること、それは幼稚園にいる間にたくさん友達を作ってほしい!たくさん友達の中で喧嘩したり仲良くしたり人と人とのつながりの中で人間関係を学んでほしいのですけど、本人がその場から逃げていたのでは…と思うのです。あと一年で彼自身どこまで成長してくれるか楽しみ半分心配半分ってところが正直な気持ちです</u> 』	誕生会 大掃除 卒業式 終業式
3/23	『 <u>預かり保育でE男は叔母が迎えにきたが、母親一人がまた幼稚園に来られる。「先生、一年間お世話になりました。ありがとうございました」</u> 』 ⇒ 『「いいえ、こちらこそありがとうございました」』 ⇒ 『「先生とは、E男のことだけでなく、いろいろなことをお話を聞いたかったです」』 ⇒ 『「ほんとうですね。これからでも、いいですよ」』	
3/27	『 <u>預かり保育に迎えに来た祖母が「先生、お世話になりました。E男も随分成長しました」</u> 』 ⇒ 『「E男さんは、とってもいいものを持っていますよ。これから楽しみです。こちらこそありがとうございました」』	

〔注〕

『 』 話し合い

アンダーラインあり 家庭から園へ

【 】 連絡帳

アンダーラインなし 園から家庭へ

☐ 電話

事はない。しかし、12/6の個人懇談で、母親が「年少の時は、Eちゃん友達がいなかったけれど、もみじ組になって友達といっしょに遊べて楽しい」とE男がお風呂の中でいうようになったのですが、…やっぱり本当みたいです」と言い、連絡帳については「いつも書いて下さるばかりで、お返事が書けなくてすみません」と言っていることから、母親は連絡帳に目を通し、E男が園で友達と遊んでいることを知って安心している様子がうかがわれる。1月の冬休み明けは、家族旅行のため始業式より3日遅れて登園するが、園生活にスムーズにもどることができたE男であったが、1/16の学級懇談では母親が仕事で来られず、友達が親子で降園する様子を見て涙ぐみ、教師が「おばあちゃんと帰るんだよ」と言うのと納得する。翌日の登園時、教師が母親にそのことを話すと、「行かれない」と言っておいたのに」と笑いながら話し、「(E男は)昔はひとり」と言っとたけど、「今は友達が聞いてくれる」と言っている」と話していることから、E男に友達ができていて、E男も母親も安心している様子がうかがえる。1/31・2/6・2/28・3/2に教師は連絡帳で、E男がしらゆき姫の小鳥役になってがんばって発表会の練習をしている様子や、やぎのメリーさんに心のこもった手紙を書いたことや銀行屋さんごっこをしていることや、園庭の隅で石を見つけて、「化石じゃ、恐竜の卵じゃ」と言ったことを伝えているが、母親からの返事はない。しかし、終業式の前の3/19に教師がE男への思いや感謝の気持ちを連絡帳に書くと、母親からE男の一年間の成長を喜び、教師に感謝していることやこれからたくさんの友達を作り、友達とも喧嘩のできるほどにたくましくなっしてほしいというE男への願いを書いた返事が返っている(3/22)。終業式(3/23)の日は預かり保育で叔母が迎えにきているが、母親はまた一人でわざわざ幼稚園にお礼を言いに来ている。そして春休みの預かり保育に迎えに来た祖母も、「E男も随分成長しました」と言って教師に感謝の気持ちを伝えている(3/27)。このことから、母親の教師への信頼と心から感謝している様子が伝わってくる。

(4) E男と母親の一年間のかかわり

E男と母親の一年間のかかわり⁷をみると、進級当初登園時、母親から離れられずに泣く。4月下旬、泣かずに登園するが、母親と離れる時は逃げ回ったり、帰ろうとする母親の後を追い駆けてりして、諦めると部屋に入る。そして母親の前では母親の気を引きたい素振りをする。5月上旬、登園時に泣くことはなくなり、次第に自分から保育室に入れるようになる。6月上旬、母親と一緒になくても妹(3歳児年少組)と門から二人で来ることが多くなり、「先生、おはよう」と自分から挨拶ができてくることから、少しずつ母親から自立してきているE男の様子がうかがえる。7月、母親にセロテープを買ってもらったことを喜んで教師に話す。母親がE男の製作好きを認めている様子がうかがわれる。10月上旬、預かり保育の時、自分のコオロギと友達の弱っているコオロギを交換してもらい、「コオロギが持てた」と嬉しそうに迎えに来た母親に見せる。しかしコオロギの脚が一本無いのに気がつく、「かわいそうだから逃がしてあげる」と言って、母親と一緒にコオロギを草むらに返している。このことから、コオロギを持つことができた喜びと、それを母親に知らせたいE男の思いが感じられる。しかしコオロギが弱っていることに気付くとコオロギを草むらに返すE男に、母親は「Eちゃん、ほんとにやさしいね」と言って、E男のやさしさを認め褒めている。同時に、母親はE男の目線に立ってE男を見つめ、E男に寄り添って行動している様子がうかがえる。1月の冬休み明けは、家族旅行のため始業式より3日遅れて登園するが、E男は園生活にスムーズにもどることができる。しかし、1/16の学級懇談では母親が仕事で来られず、友達が親子で降園する様子を見て涙ぐむ。教師に「おばあちゃんと帰るんだよ」と言われて納得する。2月下旬、園で飼育していたやぎのメリーさんが死んだ時には、家でE男が絵を描き母親が字を書いて、折り紙で「メリーさんと魚のはなし」の絵本を作り、園に持って来る。このことから、E男と母親がやぎのメリーさんの死を一緒に悲しんでいる様子がうかがえる。そして、E男は告別式に来ることのできない母親のことを、園長先生

に「かあかは仕事でこられんのじゃ」と話す。1/16の学級懇談の時は、友達が母親と降園する様子を見て涙ぐんだE男であるが、ここでは、母親の立場を受け止めることができている様子が見えてくる。3月、お別れ運動会の時、教師が代筆して作った子どもから家の人へのメッセージカードを渡す。E男のメッセージは“いつも休みの時、遊んでくれてありがとう。金メダルみたいなお土産買って来てくれてありがとう。いろいろな所へ連れて行って来てくれてありがとう。”である。それに対して母親から“Eちゃんへ、年中さんになってからは、幼稚園での楽しかったお話をたくさん聞かせてくれたね！毎日聞くのが楽しみだよ。年長さんになって、たくさんお友達作って、いつも明るくニコニコ顔のEちゃんできてね！かあかんより”というメッセージが返る。メッセージから、E男の母親への愛情とE男の成長を喜んでいる母親の気持ちが伝わってくる。

3. 研究結果の考察

(1) E男の主体性の育ちと教師のかかわり

泣きながら登園し母親からなかなか離れられず、登園後は一人でふらふらと歩いたり、一人で大型三輪車に乗ったり、一人で製作をして遊ぶことが多く、担任教師が話しかけても返事をせず手をつなごうとすると手をふりほどいたりして、新しい環境になかなか馴染むことができないE男の主体性とは、母親から離れて自分から行動し、自分の思いを素直に表現することができ、友達とかかわって遊ぶようになることと考えられる。そのE男の主体性の育ちは、担任教師がE男に寄り添っていっしょに遊んだことでE男の心が安定し、好きな製作活動に積極的にかかわることができて充実感を味わい、遊びや作品を教師や友達に認められたことが、大きなきっかけになっていると考えられる。

教師のかかわりとしては、先の研究²⁾と同様に、“環境構成”と“いっしょに遊ぶ”ことが大きなポイントになっていると言えよう。

(2) 園と家庭との個人的なかかわり

① 個人的なかかわり（話し合い・連絡帳・電

話)

本研究では、個人的な話し合いは主に登降園の送迎の時や、園行事の家庭訪問（4月）や個人懇談（12月）で行われていた。登降園時の個人的な話し合いは、進級の最初の頃（4月・5月）や、休み明け（9月・1月）や、預かり保育の迎えの時に偶然に出合った時や年中組の終業式の降園後に見られる。園行事の家庭訪問や個人懇談では、教師と母親が向い合ってゆっくりとE男について話し合われたのに対して、登降園時の話し合いは短時間に行われたと考えられる。進級当初「この子幼稚園が嫌いなんです」と、決めつけるように言っていることからだけでは理解できなかった母親の気持ちが、家庭訪問で、教師に理解されている様子が見えてくる。その後、教師はE男の園での育ちの様子を連絡帳で伝えるよう心がけている。そして、母親は3月の終業式は仕事で迎えができなかったようであるが、E男の降園後わざわざ園に来て教師に感謝の言葉をかけるために個人的な話し合いの機会を作っている。

連絡帳は個人的な話し合いの少ない時（5月末・6月・7月・10月・11月・1月末・2月・3月）に、教師が子どもの様子を知らせるために利用されていると考えられる。教師からの連絡帳に、進級の最初の頃（4月・5月）には母親は返事を書いているが、7月以降は家庭からの返事はない。しかし、12月の個人懇談での話し合いで、教師は母親が連絡帳に目を通してE男が園で友達と遊んでいることを知って安心し、教師に感謝している母親の気持ちを理解している様子が見えてくる。そして、4月・5月以外は連絡帳を書かなかった母親が、終業式の前日には、一年間のE男の成長を喜び教師への感謝の気持ちと、これからのE男への願いを連絡帳にしっかりと書いている。このことから、教師からの一方通行に思える連絡帳ではあるが、母親にとっても重要な意味を持っていると考えられる。電話は、欠席の連絡のために一度利用されている。

以上のことから、園の行事としての家庭訪問や個人懇談の話し合いや登降園時の話し合いや連絡帳や電話は、個人的なかかわりにおいて、相互関係をしながら重要な意味を持っていると言えよ

う。

② 母親と教師のかかわり

家庭訪問で母親のE男への願いや悩みや子育ての不安を理解した教師が、連絡帳や登降園時の話し合いで、E男の園での様子を母親に伝えることによって、母親は安心し、E男の育ちを喜び、教師を信頼し、E男のよさを認めることができたようになったと考えられる。つまり、教師が母親と同じようにE男の成長を望みながら、E男の様子を個人的に連絡帳や話し合いで伝えることによって、教師も母親もE男の育ちを共に喜び、教師と母親の信頼関係は一層に深まったと考えられる。そして、そのことによって、母親の子どもを見直す態度が育ったと言えよう。

本研究においての園と家庭との個人的なかかわりは、担任教師と母親が主であるが、進級当初には園長が母親に「E男くんの気持ちを受け止めてあげてくださいね」と話していたり、終業式の後の預かり保育の時に祖母が教師に感謝の言葉をかけたりしていることから、園の全教師やE男の家族へとそのかかわりは広範囲に及んでいると考えられる。

(3) E男と母親のかかわり

進級当初泣きながら登園し母親からなかなか離れられなかったE男は、園生活に慣れるに従って母親から自立し、進級当初「この子、幼稚園がきらいなんです」と決めつけたように言っていた母親は、そのE男の育ちの様子を見たり、教師から園での様子を知らせてもらうことによって安心し、E男の育ちを喜び、E男の良さを認めることができ、E男の目線に立ってE男を理解していっしょに活動できるようになったと考えられる。そしてそのことによって、E男は、母親の立場を理解することができるようになったと考えられる。つまり、E男が育つことによって、母親もまた母親として育っていると言えよう。

おわりに

E男の主体性の育ちと教師のかかわりについて考察した結果、先の研究⁹⁾と同様に、E男の主体性の育ちは、“自己充実”と“教師や友達に自分

自身が認められたこと”が大きなきっかけになっていると考えられる。教師のかかわりとしては、“環境構成”と“いっしょに遊ぶ”ことが大きなポイントと考えられる。

さらに、母親と教師の個人的かかわり（話し合い・連絡帳・電話）について考察した結果、母親と教師が個人的にかかわりことによって、教師は母親を理解し、母親にE男の様子を伝え、そのことによって教師と母親の信頼関係は深まり、母親の子どもを見直す態度が育ったと言えよう。そしてそのことは、E男の主体性の育ちに大きな影響を与えたと思われる。

以上のことから、子どもの主体性の育ちは、教師の主体性の育ちであり、母親の主体性の育ちであると言えるのではないかと考えられる。

本研究の連絡帳でのかかわりは、従来の保育者が園の様子を伝え、保護者が家庭での様子を伝えるという両者の記録¹⁰⁾から、教師からの一方通行の連絡帳に変わりつつあるのではないかと考えられる。連絡帳について考えるとともに、今後の園と家庭との個人的なかかわりのあり方について、考察を深めたい。さらに、本研究では個人的なかかわりを中心に考察したが、園行事における園と家庭との連携についても研究を深めたいと考えている。

本研究に御協力いただきました第二まこと幼稚園の先生方に、心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 高月教恵・堀内秀子・野崎典子・小田正子：子どもの主体性と教師のかかわり(2)－自由遊びにおける行動観察記録を中心に－、新見女子短期大学第19巻、1998、pp.73-74
- 2) 高月教恵：子どもの主体性と教師のかかわり(1)－保育現場における主体性の概念－、新見女子短期大学第18巻、1997、p.38
- 3) 前掲書1)と同じ)
- 4) 高月教恵：子どもの主体性と教師のかかわり(3)－“テーマを共有した遊び”での環境構成を中心に－、新見公立短期大学紀要第20巻、1999、p.22
- 5) 第二まこと幼稚園（平成13年度中国地区私立幼稚園教育研修会資料 pp.27-30

6) 同上 pp.31-33)

7) 同上 pp.27-33

8) 前掲書 1) と同じ

9) 同上 1) と同じ

10) 森岡和子：保育実践講座8、岡田正章監修編、園と家庭・地域との連携、pp.78-79